



利根山光人

Toneyama Kojin

第89号 平成28年4月30日

記念美術館通信

Memorial Art Museum News Letter

〒024-0043 岩手県北上市立花15-153-2

TEL/FAX 0197-65-1808

利根山光人記念美術館 平成28年度企画展開催中 利根山光人 — 新所蔵作品展 —

前期:平成28年4月1日(金)~6月16日(木)

後期:平成28年6月18日(土)~8月25日(木)

※6月17日(金)展示替えのため休館

利根山光人記念美術館開館20周年を記念し、今回の企画展は、彌恵子夫人から新しく寄贈していただいた当市未公開の作品から、前期企画展では利根山光人画伯が世界を旅して目にふれた国々と、日本各地のまつりを描いた作品を展示しています。

マヤ文明に触発され、古代人類が残した造形作品や伝承する芸能など、人間の根源をみいだそうと表現し続けた利根山光人。

文化の根源は古代にあり、古代を知って現代を知り、それを造形表現することが真の芸術である、ということを感じています。

是非ご覧になって、画伯の作品を感じてみてください。



遠野ししおどり

『遺したい北上の風景画』



10月中旬、夏油高原がすっかり色づいた頃、スキー場に向かってドライブしました。

夏油大橋を渡った時、入畑ダム湖のエメラルドグリーンの湖面が目に入りました。車を降りて、岸近くから夏油大橋方面を眺めると、赤や黄色に彩られた山々と赤い橋の下に広がるエメラルドグリーンの湖面が、とても美しく神秘的に見えました。

新緑の頃、エメラルドグリーンの湖面はどうなっているのか、また行って見たいです。

小田嶋 よし子さん
(利根山光人記念美術館光の会)

北上市所蔵美術品紹介



『日輪』北上駅舎陶板画下絵

昭和56年、利根山光人画伯は約1年近くの時間をかけて、北上駅西口コンコースに陶壁画「日輪」を完成させました。自身が感銘を受けた鬼剣舞と鹿踊をモチーフとし、壁画の一部には、北上市の発展の祈りを込めて展勝地の石を砕いて使用しています。「日輪」は今も北上駅のシンボルとして観光客を出迎えています。

この下絵は、実際の陶壁画の10分の1のサイズである、縦35cm×横180cmのサイズで描かれています。

～鬼の館で開催中！～



炎

利根山光人 — 鬼と民話を描く —

平成28年4月23日(土)～7月10日(日)

太陽の画家と呼ばれた利根山光人画伯が描く、鬼と民話の世界。

今回は、彌恵子夫人から新たに寄贈いただいた画伯の作品を展示しています。

皆様にも馴染みのある民話と鬼。また、北上駅の陶壁画の下絵とその作成風景写真や、実際に画伯が使用していたエプロンや筆等、画伯が旅をした国々の民芸品の一部を展示しています。

—北上立鬼の館—

岩手県北上市和賀町岩崎16地割131番地

TEL 0197-73-8488 FAX 0197-73-8508

—利根山光人記念美術館と私—

20代の頃から長く油絵を描いてきて、それが縁だと思いますが、美術館に通い始めて3年目になります。美術館の来館者の方で、『私は絵の見方が分からない。抽象画が分からない。』とおっしゃる方もいます。そんな時いつも私は、『それではあなたの衣類、あるいは食べ物をどうやって選んでいますか？』と問います。そして『あなたが絵を見て感じた通りでよいと思います。』とお伝えします。

私にだって、体の調子の良い時悪い時、人との出会い、時間帯等で受ける感じが変わりますし、絵によっては、時間が経ってまた何度も見たくなる絵もあります。最近では、無意識の世界や虚像のアートもあります。

日本の伝統のような技術的、目的、思想の知識等があれば更に深まる時もあるし、長く描いている人より小学生の絵の方が、何故かおもしろい時もあります。絵は、難しく考えずにそれぞれに見て感じてもらえたらと、私は思います。

さて美術館ですが、絵の通り急な階段を上がり森の中にあります。自然の空気、北上の街が全景できるような眺めの良い最高の場所だと思っています。思い出の一コマになって頂けたらと思います。どうぞお気軽にお越しください。

高橋 平光

(利根山光人記念美術館専任研究員)

